

防災マップの活用方法について

① 住んでいる場所と予想される浸水の深さを地図上で確認しましょう

この防災マップには、予想される浸水の範囲と深さがランク別に色分けされています。自分の住んでいる場所は浸水の危険があるのか、予想される浸水の深さはどれくらいになるのかを確認しましょう。

ただし、予想される浸水は、このとおりにはならないことがあります。

② 避難場所を確認しましょう

この防災マップ 7・8 ページの避難所一覧で、自分の住んでいる地区で指定されている避難場所がどこかを確認しましょう。そして、地図上でその避難場所がどこにあるのか、場所の確認をしましょう。



③ 避難経路を考えてみましょう

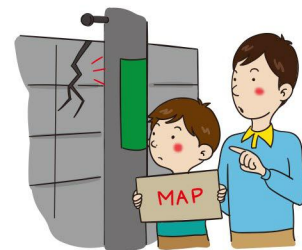
この防災マップで自分が住んでいる場所から避難場所まで、どの道を通れば良いか、避難経路を地図上で確認しましょう。

地図上での確認が済んだら、実際に避難場所まで歩いてみましょう。安全で歩きやすい道を選び、避難場所までの経路を確認して、所要時間も計ってみましょう。実際に避難するときは、夜間・大雨・大人数での移動が考えられるため、所要時間は平常時の倍以上かかる可能性があります。

④ 家族や周辺住民と情報を共有しましょう

この防災マップは家族と一緒に確認しましょう。地震、台風や大雨により、避難が必要になったときは、周辺住民、親戚、知り合いなどにこれから避難することと避難先を伝え、どこの施設に避難しているのか分かるようにしておきましょう。

安否確認には、災害用伝言ダイヤル(171)の利用も有効です。



警戒レベル相当情報

防災気象情報（警戒レベル相当情報）		
	浸水の情報（河川）	気象情報
5相当	氾濫発生情報	大雨特別警報 (土砂災害)
4相当	氾濫危険情報	土砂災害 警戒情報
3相当	氾濫警戒情報 洪水警報	大雨警報
2相当	氾濫注意情報	—
1相当	—	—

